

学校法人 東京滋慶学園 新東京歯科衛生士学校
2024年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時 2024年5月23日（木） 15:00～17:00

会場 143-0016 東京都大田区大森北1-18-2
新東京歯科技工士学校／新東京歯科衛生士学校 702教室

参加者

●学校関係者評価委員

所属校	氏名(敬称略)	所属	役職	委員区分	任期
新東京 歯科衛生 士学校	森 章	拓殖大学紅陵高等学校	校長	高等学校関係者	2024年4月～2026年3月
	河野 勉	大森歯科医師会	会長	地域関係者	2024年4月～2026年3月
	渡部 みゆき	医療法人社団正翔会 横須賀歯科医院	マネージャー	卒業生代表	2024年4月～2026年3月
	横田 章子	歯科衛生士科Ⅱ部2年 在校生保護者		保護者代表	2024年4月～2026年3月
	富田 基子	公益社団法人 東京都歯科衛生士会	顧問	業界関係者	2024年4月～2026年3月

●学園・学校関係出席者

氏名(敬称略)	所属	役職
中村 道雄	学校法人 東京滋慶学園	理事長
宮崎 隆	新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校	学校長
三觜 雅子	新東京歯科衛生士学校	副学校長
岩村 勇	学校法人 東京滋慶学園	評議員
今井 リカ	新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校	事務局長
印南 秀	新東京歯科技工士学校	学部長
富野 浩子	新東京歯科技工士学校	学科長
西村 充剛	新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校	キャリアセンター長
兒玉 あゆみ	新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校	学生サービスセンター長

議題 <会議の概要>

- 開催挨拶
- 委員ご紹介並びに学校関係出席者紹介
- 本委員会趣旨説明
- 2023年度自己評価項目と評価内容の説明
- 2024年度の重点目標と評価に関する説明
- 質疑応答・意見交換
- 閉会挨拶

議 事 （※敬称略）

1. 開会挨拶（学校長 宮崎）

2. 評価委員のご紹介並びに学校側出席者の紹介

欠席：渡部みゆき委員 ※評価表は別途預かっている

3. 本委員会の主旨説明（副運営本部長 関口）

2013年より始まった職業実践専門課程が専修学校専門課程（専門学校）の教育に関する一定の質を担保している学校として、業界・保護者などの利害関係者から評価されることで称号を授与することが目的とされている。この課程を取得している専門学校は全国で約4割。滋慶学園グループは約9割の学校が認可されている。

職業実践専門課程の認定を受けるには、企業等との密接な連携により、最新かつ実践的な知識・技術等を身につけられるよう教育課程の編成や学校評価等を実施し、職業教育としての質の確保に向け、各基準について組織的に取り組むことが認定要件となっている。その一つとして、学校にて自己評価し、学校が専任した「学校関係者」で構成された学校関係者評価委員会を実施し、それに対し委員より評価や提言をいただき、翌年の学校教育に反映させる必要がある。毎年繰り返し学校運営に取り入れていくものとなる為、学校の自己点検が適切かどうか、評価をしていただきたい。

<評価項目説明>

委員の皆様には前年度の自己点検評価の2次評価をしていただく。

学内自己点検自己評価委員会で実施した内容を事前に委員の皆様へ送付している。

- ・自己点検、自己評価表(1次評価) 65項目の小項目に対して評価(5段階評価)
- ・学校関係者評価表(2次評価) 全11の大項目に対して評価(3段階評価)

評価点とともに、各委員からのご意見をご記入いただきご提出いただく。

委員からの平均点数とご意見、議事録を本校ホームページにて情報公開する。

4. 2023年度の自己評価項目と評価内容の説明（事務局長 今井）

5. 2024年度の重点目標と評価に関する説明（事務局長 今井）

対象学校：歯科技工士科Ⅰ部、歯科衛生士学校Ⅰ部・Ⅱ部

学校・学科説明：入学案内パンフレット参照

※以下、詳細解説をした抜粋箇所

<教育理念>

実学教育・人間教育・国際教育

育成人材像「職業人教育を通して社会に貢献する」（詳細は学生便覧参照）

<学校運営>

毎年、事業計画を作成している。

事業計画は、目的・方針・目標・計画・組織図・職務分掌・収支予算書などで構成されている。

高専・産学連携を行い、各種信頼を得るよう運営をしている。

ミッションは国家資格の合格と就職。

<教育活動>

入学前から卒業後まで、キャリア形成・キャリア設計・キャリア開発のフロー教育となっている。

<教育成果>

・就職実績

就職希望者は全員就職出来ている状況である。卒業生数から90%内定、10%は他分野や就職希望しない学生もいる。就職希望者を増やすことも課題のひとつである。

・教育成果（国家試験）

衛生士学校：受験者145名 合格者142名 合格率97.9%（全国平均92.4%）

・退学者数

衛生士学校：目標16名以内 実績32名 1年生進級率目標94.9% 1年生進級率実績92.6%

課題：昼間部…退学者数が過去最低。学力問題により3年生の退学者増加。

夜間部…十代の入学生が増加しているが、学習のペースが合わず退学者が増加。

<教育活動>

・前回の委員会にてキャリア教育に力を入れる必要があるというご意見をもとに、実習前・中・後に実習を想定したワークを実施し、考え方の引き出しを増やす教育に力を入れた。

・キャリア形成支援について課題が残った。セルフマネジメント力をつける必要がある。

・個人情報の取り扱いについて、学生も職員もITリテラシー試験を実施している。

<学生支援>

辞めやすい時期を見越したシンドローム対策（長期休暇前、学費納入時期等）を年間スケジュールでたてている。属人化しすぎないように、仕組化している。

一人ひとりに対して、担任だけでなく各役割の職員が学生と関わるよう工夫。またカウンセラーが週2回来ている。学生は自由にカウンセリングを受ける事ができる。

<教育環境>

災害時における組織体制は緊急連絡網の設置や、防災訓練を毎年実施し対応できるようにしている。

全在校生分の3日分の食料備蓄を配備している。

安否確認システムを設置している。緊急時に自動メールが送信され、返信することで状況の集約ができるようになっている。

<学生募集と受入れ>

入学選考に関する規定（募集要項参照）に沿って入試選考委員にて判定を行っている。

保護者の方向けの資料（保護者のみなさまへ参照）や保護者会を開催している。

定員充足率：109.3%（前年：108.8%）

<財務状況>

HPにて財務情報を公開している。

<社会貢献>

大田区と災害時協力協定を締結。災害時には学校施設を提供している。

今後も地域との連携を強化していく必要がある。

<国際交流>

海外研修は中止となっており、学内にて海外講師による講演を実施している。

2024年度は海外研修が実施できるよう進めている。

<前年度の意見からの取り組み>

- ・産学連携教育の深化を図る。
- ・キャリア教育プログラムの見直しを行う。
- ・実習教育プログラムの強化を図る。
- ・トップ層教育の推進を図る。

6. 質疑応答・意見交換

(森)

- ・進級、卒業する為の単位数等はきっちりと実施できているのか？
→(大原) 全て行っている。
- ・カリキュラム通りの運営の中で、通常授業に国家試験の対策が入っていないか？
→(大原) 養成施設指定科目に国家試験対策を入れる事はできない。学校独自のカリキュラムの中で実施している。
- ・また、学内選抜した学生をメインにして、オープンキャンパス等で前に出してもらおうと非常に好評である(司会進行等)。
入学者の定員確保は重要である。最終的には確実に国家試験に合格できる力を身につける必要がある。

18歳人口が減少しているうえに、更にコロナ渦により学校に行かない学生が増えている。心に病をもった生徒も増えている。

学力不足で退学する学生よりも、心の病や発達障がいに対応できる学校になってほしい。

(河野)

- ・衛生士はどうしても基礎科目に拒否反応を持ってしまう。一度にやると憂鬱になるので学年毎のカリキュラムに散りばめると良いのかもしれない。

(横田)

- ・入学した学生の質を上げる為に、学生選考が非常に重要だと感じている。
退学者や国家試験合格を考えると入学生の質を上げることも必要ではないか。
入学希望者が多ければ優秀者が自然に集まるが、選抜の状況はどうか？
→(今井) 技工は倍率が発生しない限りは受け入れていく。自分たちの教育力を高める。
- ・実は娘(在校生)が前年の11月頃に問合せをしたところ締め切られていた。
歯科大に合格した方が、やはり厳しくて諦めるという話も耳にする。1枠でも良いので3月末まで残していただきたい。

(富田)

先生方の努力が十分に伝わりました。

自分は周りに衛生士を反対されていたが、先生に憧れ、学校がとても楽しかった。

是非楽しく過ごせる学校になっていただきたい。

日本歯科衛生士学会を行いますので是非学生をご招待ください。

7. 閉会の挨拶(理事長 中村)

以上

評価内容及び委員会での意見を踏まえた改善方策について

- ・医療基礎科目と臨床科目の関連性について、学生が理解しやすいカリキュラムを構築することによって、学習不安が原因となる退学者の軽減を目指す。
 - ・臨床実習を通じて、業界から求められる歯科衛生士としてのキャリア教育を強化していく。
 - ・各学年の到達目標を見据えて、学習の習熟度をレベル別に支援し、教員だけではなく学生間の支援システムを確立することによって卒業判定試験不合格者の減少を目指す。
-